

日本共産党、現有議席守れず後退 新潟選挙区では森ゆうこさん惜敗

今回の参議院議員選挙で、日本共産党の当選は選挙区で1議席、比例代表で3議席に留まり、改選前より後退しました。また、新潟選挙区では、市民と野党の共同候補、森ゆうこさんの議席を守れ

ませんでした。

今回の選挙で日本共産党は、憲法9条を生かして、東アジアに平和をつくる外交ビジョンを提案したほか、消費税の5%への引き下げ、大企業の内部留保の一部を活用した賃上げの促進などを公約してたたかいました。

選挙戦が終わって、日本共産党上越地区委員会の五十嵐委員長は、「極めて残念な結果となった。上越でも後退したが支援いただいたみなさんに感謝とお詫びを申し上げたい。今後は党の地力をつけながら、公約実現のために全力を挙げよう。自公の悪政を変えていくには市民と野党の共闘しかない。引き続きのご支援をお願いしたい」との談話を発表しました。

私も日本共産党上越市議団長として、市民のみなさんのいのちと暮らしを守る先頭に立って頑張ります。



左上は森ゆうこ候補。右上、左下はカニ池交差点で訴える井上参院議員と山下参院議員。



株杜氏の郷民営化めぐり再び意見書提出 吉川区地域協議会、地元重視を訴え

吉川区地域協議会は12日、中川幹太市長に「株式会社よしかわ杜氏の郷民営化に関する意見書」を提出しました。これは、吉川区にある「設立当初の目的や地元住民の想いを確実に引き継ぐ公募を」などの声や売り上げ全体の2割近くを占めるパルシステム関係者の「評価基準での『理念の継承』の配点は低すぎる」（6月24日の説明会での発言）などといった声を反映させたものです。意見書は以下の通りです。

この度は、当協議会より提出いたしました意見書につきまして、ご配慮いただいておりますことに大変感謝を申し上げます。

さて、7月11日付にて株式会社よしかわ杜氏の郷の株式譲渡に関する募集が始まりましたが、譲渡先の「評価基準」につきましては、先般の意見書に対するご回答である「設立当初の目的、住民の想い」を尊重する言

は、大きく異なる基準内容であると捉えております。

譲渡先につきましては、当協議会においてもご説明させて頂いておりますが、株式会社よしかわ杜氏の郷の起業当初より現在までを熟知し、地域との共存に努め、今後の方向性についても、十分理解されている企業を選定されることが、地元地域において、最も望ましいと考えております。

募集にあたりましてはその内容を見直していただき、評価基準につきましても地元へのご配慮をいただくとともに、まずは地元の範囲から募集を始め、段階的に拡大する手順等を進めていただくことを望みます。

ここに改めて、意見書のご回答にありますように「設立当初の目的や吉川区の住民の想いを尊重」した取組を進めてくださるようお願い申し上げます。

今後の動きに注目です。



【カラスウリ】ウリ科の植物。漢字で「烏瓜」と書きます。昨年、浦川原区の方から「めずらしいものを見つけた」と連絡してもらったのが、このカラスウリの実でした。花期は7月～9月、日没後に白い花を咲かせます。花言葉は「男ざらい」です。写真は7月6日、柿崎区百木地内にて撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2069 2022.7.17
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七一六回

はつもん

やはり、この季節には「はつもん」という言葉が似合います。春に種をまいたり、苗を植えたりした野菜が次々と収穫の時期を迎えるからです。

「はつもん」というのは「初物」の方言です。先日、吉川区勝穂地区のHさん宅でお茶をご馳走になったとき、「さあさ、食べてくんない、はつもんだけ」と言ってお出してくださったものはカボチャと枝豆でした。カボチャは皿の上に五切れのせられていて、茹で上がりのオレンジ色が食欲をそそります。枝豆は一〇個くらいだったでしょうか、こちらもきれいな黄緑色になっていました。

出された直後、カボチャも枝豆もHさん夫婦の畑でとれたものだと思っていたのですが、お二人が「カボチャはヨシアキさんが持ってきてくんないが」「この枝豆はイクちゃんが持ってきてくんないが」と言ったことでそうでないことがわかりました。どちらもお親しく付き合いをされている人からのプレゼントだったのです。

今年、カボチャは出来が早いのでしょうか、この数日前、私は大島区菖蒲地区のある家でカボチャの「はつもん」をご馳走になっていました。Hさん宅で出されたものもたぶん同じ品種だったでしょう。色も味もまったく同じ感じで、いいものではない。私は枝豆に手を付け始めると、休むことなく食べ続けてしまいます。遠慮なく、どんどん食べる姿を見て、Hさんのお連れ合いは、「ああ、橋爪さんに食べてもらっていかった」と喜んでくださいました。

今回の「はつもん」は「お茶のとも」として最高でした。「イクちゃんちの枝豆は吉川郵便局にも出してんがだよ」という話から、話は盛り上がりしました。野菜販売は農協へ出すだけでなく、最近、郵便局などいろいろなところへ出すということ。びっくりしましたね、「郵便局に出す」と

いうのは宅急便を使うという意味だと思ったら、そうではないのです。郵便局舎内でも販売しているということだったのです。今度、吉川郵便局に行つて、その様子を見てみようと思います。

出していた力ポチャと枝豆は私のスマートフォンのカメラを使い、写真に収めました。撮ったものをHさん夫婦に見せたら、「いいもんだね。よく撮れている」とほめていただきました。その言葉が呼び水となり、私のスマホ内の画像やイラストも見ていただきました。このうち、ヒマワリは頸城区で撮ったものですが、お天道様の光を受けて、輝いていました。Hさんのお連れ合いが「きれいだね」と言われたので、「若い時の誰かさんみただ」と言うと、「ニコニコして」「知らんくせに」。そして「ヒマワリなら、おうちにもいいのがあるよ。こんだ、おらんちも撮ってくんない」と言われました。

Hさんのお連れ合いは元建設労働者でした。原之町に営業所があったN事業で働いていたのです。「N事業では国田のママルさんちの母ちゃんや河沢のヤッチャと一緒に仕事させてもらった」と語り、昔の仕事振り返りました。ヤッチャというのは私の叔母です。こうした人たちはすでに八〇代です。最近が高齢者や障がいのある人たちが集うサロンに行つて交流しているとのことでした。

わが家では、いま畑をまったくやっついてません。昔は「はつもん」を収穫すると、必ず仏壇に上げ、その後、家族みんなで、「はつもん」を味わったものです。自分で作らず、買ったもの、もらったりするなかでその習慣は薄らいでしまいました。最近では出てきませんが、そのうち、祖父音治郎が夢に出てきて言いそうです。「あにや、人様からもらったもんでも、はつもんは仏壇に上げてから食うもんだ」と。

市内各地で「3年ぶり」、交流活動再開

大島区では「高齢者若がえりの集い」

ニュースフラッシュ

新型コロナウイルスの影響で当市でも交流活動はほとんど行われなくなりました。でも、「このままではいけない」と市内かくちで、3年ぶりに交流活動が再開されています。

大島区では13日、「高齢者若がえりの集い」がふれあい館で行われました。老人クラブ連合会主催です。

何をやるのかなと思つてのぞいてみたら、輪投げの競技でした。輪投げをやって楽しむと若がえるんですね。参加されたみなさんは、若がえろうと真剣そのものでした。競技の結果は、田麦チームが個人の部でも団体の部でも大活躍でした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月6日(水)	7月13日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.043	0.040
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.043	0.040
名立分遣所	0.060	0.050
高士分遣所	0.050	0.047